3．基本方針

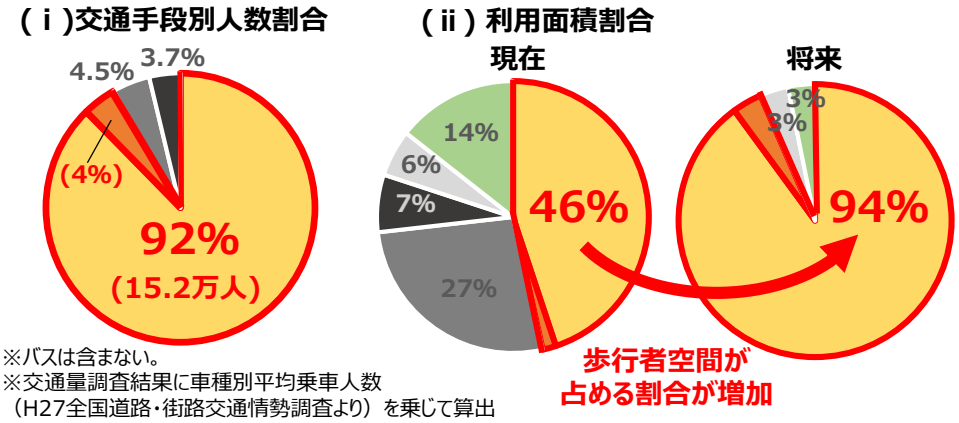
（1）道路空間再編の方針

方針①：利用実態に合わせて、空間を再配分

(a)なんば駅前の現在の交通手段別利用人数割合／現在・将来の交通手段別面積割合

- 現在のなんば駅前は、車両利用者より歩行者の人数が多いにも関わらず、空間としては、歩行者と車の占める面積が同程度となっています。
- 空間再編により、利用実態に合わせて、歩行者のための空間が大きく増加します。

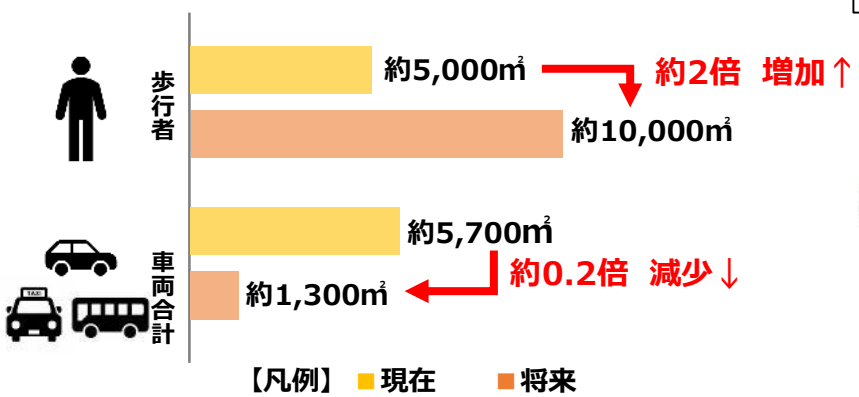
【凡例】 ■歩行者 ■自転車 ■車 ■タクシー ■バス ■その他(植栽等)

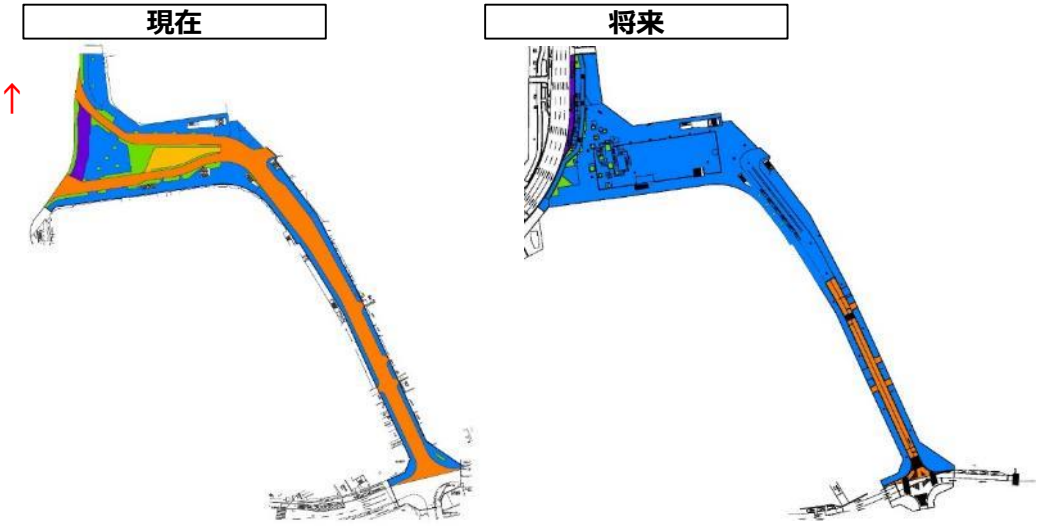


※バスは含まない。
※交通量調査結果に車種別平均乗車人数（H27全国道路・街路交通情勢調査より）を乗じて算出

(b)現状と将来の面積比較

- 空間再編により、歩行者空間が約2倍に増加し、車両空間が約0.2倍と大きく減少します。





【凡例】 歩行者 車 タクシー バス その他（植栽帯）

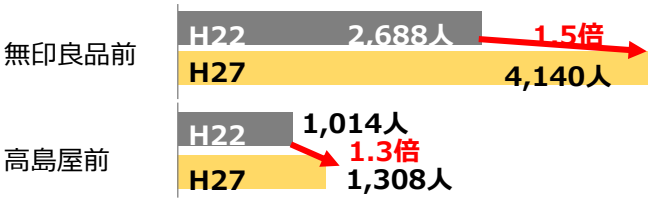
3．基本方針

（1）道路空間再編の方針

方針②：歩行者空間の拡充による安全性の確保

- なんさん通り南北区間の歩行者通行量はコロナ禍前にはインバウンド需要とともに増加傾向にあり、区間の南側においては、3m未満の幅員に多くの歩行者の通行がありました。自転車の通行や不法駐輪もあるため、歩行者が車道を歩行している状況も確認されています。
- ポストコロナのインバウンド需要の回復に向けて、快適で安全・安心な歩行空間を確保します。

(a)なんさん通り(南北)休日の歩行者量の推移(各測定日のピーク時の通行量)

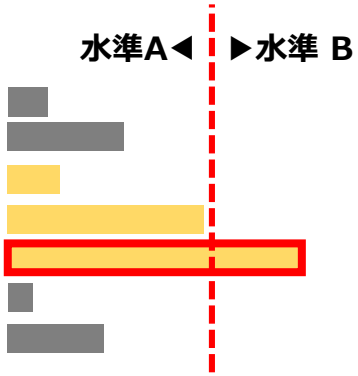


▲なんさん通り(南北)の様子

(b)なんさん通り(南北)休日の歩行者サービス水準

- 歩行者通行量の多い休日ピーク時のデータによると、<u>なんさん通りは、周辺の他の歩道と比較して歩行者サービス水準が低い。</u>

調査場所 ※P6参照（通り名/位置/場所）			有効幅員（m）	ピーク時交通量（人/h）	サービス水準（人/m･分）	判定基準
新川通り（平成22年）	西	蓬莱前	3.2	1,019	5.3	A
	東	南海会館前	6.7	6,190	15.4	A
なんさん通り（平成27年）	**西**	**高島屋前**	**3.0**	**1,308**	**6.9**	**A**
	東/北	**無印良品前**	**2.7**	**4,140**	**26.0**	**A**
	東/南	**サンマルク前**	**1.5**	**3,500**	**38.9**	**B**
御堂筋（平成24年）	西	新歌舞伎座前	6.5	1,306	3.3	A
	東	三菱UFJ信託前	3.5	2,686	12.8	A



〔サービス水準算出式〕ピーク時交通量(人)/60(分)/有効幅員(m) ※有効幅員は電柱などの幅を控除した歩道幅員
〔判定基準〕 A 自由歩行 27人/m･分以下　B やや制約 27～51人/m･分　C やや困難 51～71人/m･分
D 困難 71～87人/m･分　E ほとんど不可能 87～100人/m･分

※出典：なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画 2017[H29]年３月

3．基本方針

（1）道路空間再編の方針

方針③：駅前広場を中心とした回遊ネットワークの形成

- 駅前広場はターミナル駅に隣接した回遊の拠点・玄関口として、御堂筋の「風格」、商都の「にぎわい」を象徴する周辺の商店街といった個性ある特徴的な歩行者空間をつなぎ、エリア全体を回遊するネットワークを創出します。
- 駅前広場で休憩や待合せて、御堂筋や周辺の商店街を回遊する利用も想定され、広場内に適切に休憩等の滞留施設を備えることにより、より人にやさしく安全・安心で快適な回遊ネットワークの強化が図られると考えられます。こうした滞留機能の向上が、駅前広場を中心とした回遊圏域をさらに拡げることにつながり、エリア全体の活性化に寄与することをめざします。

エリア全体の
回遊イメージ

※出典：令和元年度大阪府統計年鑑より
2018年度１日平均の乗降人員

（2）シンボル空間創出の方針

方針①：多様な活動の舞台となる空間の創出

- なんばは上方演芸の中心地としてまちが築かれ、芝居小屋などがひしめく劇場空間、道頓堀五座をはじめ各種エンターテイメントを楽しむことができる遊興空間を形成してきました。
- 劇場で芝居や落語、漫才、映画を見た後に休憩・飲食する。表現する場と休憩する場が一体となった空間がなんばらしさであり、広場では、訪れるすべての人々が主役になれる多様な活動の場所をめざします。

誰もがクリエイティブになれる場所、訪れた人がワクワクする場所

広場を“舞台”として捉え、必要な空間や装置を整える。人と人がハブになり、人々の振る舞いが風景をつくる

滞留スペース

休憩する（飲食、ベンチ、カフェなど）

キッチンカーや飲食店が広場に面することでにぎわいを創出します。駅前空間として多様なニーズに応えられるように様々なベンチを配置します。

賑わうイベント

つかいこなす空間

舞台装置

体験する（照明、電源設備、可動式ファニチャーなど）

照明や電源設備など人の活動に必要なインフラを整えることで、活動の幅が広がります。広場全体を使ってのイベントや小規模でのストリートライブなど多様な体験を支える装置を整備します。

特別なパフォーマンス

屋外シネマ

テンポラリーアート

感動を与える（アート、音楽、伝統工芸品の展示など）

来街者自らが体験、表現できるような参加型のアートイベントなど訪れた人が互いに刺激を与えあう空間を創出します。先進的なアートや大阪らしさを感じられる工芸品の展示など、創造性の高いプログラムの展開をめざします。

ポップアップアート

参加型アートイベント

※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります

（2）シンボル空間創出の方針

方針①：多様な活動の舞台となる空間の創出

・また、新たな大阪の玄関口としてのシンボル性・高質性や、心地よい空間としての滞留性・回遊性を備えた空間として、都市格を感じる空間づくりをめざします。

まちの歴史やにぎわい、大阪の都市格を感じる　心地よい空間づくり

人が美しく見える舞台づくり

・人が主役となる広場の骨格
・人々の動きを引き立たせる
　主張しないデザイン

登録有形文化財である建造物等を背景とした空間構成

人々の滞留風景を美しく照らすスポット照明

上質なおもてなしの空間づくり

・大阪の玄関口としてのシンボル性
・回遊のハブとなる広場空間

フォトジェニックな風景

広場と接続する通りとの繋がりを大切にした空間づくり

滞留性と回遊性の向上

・多様な過ごし方を受け入れる、
　上質で居心地の良い空間の創出
・安全・安心な歩行・滞留空間の整備

多様な滞留スペースの展開

歩行空間と滞留空間を緩やかに領域分け

※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります

（2）シンボル空間創出の方針

方針②：日常・非日常の風景の実現

人の過ごす風景が、なんばの新しい顔となる

・この場所では、行き交う人々が憩い、出会い、日常や非日常の時間を過ごします。こうした風景が、なんばの新しい「顔」となることをめざします。

日常

木陰で一休みをする

待ち合わせをする

行きかう人を眺める

ライトアップを楽しむ

読書にふける

パフォーマンスを見る

SNSに写真をアップする

家族が語らう

ばったりと知人に会う

行き先を見つける

海外旅行客の外国語が聞こえる

ワーカーがお昼ご飯を食べる

非日常

地元の祭りに参加する

カウントダウンに参加する

ライブを楽しむ

ライティングショーを楽しむ

（2）シンボル空間創出の方針

方針③：夜間景観の形成

- 「世界で最も美しい広場」といわれている広場は夜間景観が重要であり、なんば駅前広場で夜間景観を実現することで、世界をひきつける観光拠点づくりや都市格の向上につなげます。

夜間景観のめざす姿　「ワールドクラスの美しく楽しい広場」

①特徴的な建物に囲われている	なんば広場のポテンシャル	①南海ビル（登録有形文化財）など
②広さがある		②約6,000㎡(参考:グランプラス約8,000㎡)
③夜景が魅力的	なんば広場で実現すべきこと	③夜間景観の形成
④飲食やアクティビティなどにぎわいがある		④地域やエリアマネジメント等によるにぎわい創出

参考：世界の広場整備の事例

○グランプラス（ブリュッセル・ベルギー）

○サンマルコ広場（ベネチア・イタリア）

○ユニオンスクエア（ニューヨーク・USA）

○照明計画の考え方

- 観光において目的地となる広場には、必ず写真に使われる「顔」が必要であり、来街動機・情報拡散につながる「絵になる１枚」に結びつく要素を、広場本体だけでなく、周辺資源等も含めて構成します。また、SDGsやスマートシティの視点を必須事項として、エネルギー負荷軽減に配慮した器具等を採用します。

OSAKAの玄関としての顔づくり	滞留性・回遊性向上	環境配慮・省エネ	安全安心
①都会らしい立体的な明るさと陰影 ②大阪なんばでしか実現できない個性が際立つシンボリックな夜景の創出	①柔らかなまぶしさの広場 ②連続性により視線をつなぐあかりの配置 ③象徴的なシビックプライドデザイン ④イベント&アクティビティのための設備	①深夜の明るさ抑制（自動調光プログラム） ②オールLED光源、陰影を楽しむ広場	①JIS基準の平均照度確保 ②間引かずに全体の明るさを下げる工夫（深夜は5%点灯など）

※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります